令和六年　第三回例会

観世流

緑泉会

令和六年
九月二十九日（日）
午後一時開演（正午開場）
矢来能楽堂

「芭蕉」シテ 中森 貫太（撮影 駒井 壮介）

舞囃子 Maibayashi …… 高砂
狂言 Kyougen …… 呂蓮
能 Noh …… 芭蕉

Takasago …… 墨　敬子
Roren …… 野村　万作
Bashou …… 中所　宜夫

令和六年　第三回例会　番組

舞囃子　**高砂**　墨　敬子

大鼓　柿原　孝則　太鼓　姥浦　理紗
小鼓　岡本　はる奈　笛　熊本　俊太郎
石井　寛人
新井　麻衣子　地謡
津村　禮次郎
筒井　陽子

狂言　**呂蓮**　僧　野村　万作　宿ノ主人　福田　成生　妻　飯田　豪　後見　月崎　晴夫

仕舞　**鐘之段**　桑田　貴志
仕舞　**融**　鈴木　啓吾

敦盛（キリ）　津村　禮次郎
筒井　陽子
坂　真太郎　地謡
佐久間　二郎
中森　健之介

【休憩二十分】

能　**芭蕉**

里女　芭蕉ノ精　中所　宜夫
山居ノ僧　福王　和幸　大鼓　柿原　光博
小鼓　大倉　源次郎　笛　槻宅　聡
里人　深田　博治
石井　寛人　佐久間　二郎
中森　健之介　奥川　恒治
地謡
桑田　貴志　中森　貫太
坂　真太郎　鈴木　啓吾
後見　新井　麻衣子
永島　充

【終演予定　四時十分】

許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切り下さい。
演能や他のお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場頂く事もございますのでご了承下さい。

舞囃子…高砂（たかさご）

月の出とともに船を出し、高砂の浦から住吉へ向かう神主友成。住吉の岸に着くと、月光のもとに住吉明神が現れる。神舞を、神々しく颯爽と舞い、悪魔を払い、君民の長寿を寿ぎ、平安な世を祝福する。

高砂の神舞は最も格高い神舞とされている。

狂言…呂蓮（ろれん）

諸国を修行する旅の僧が、ある男の家に、一夜の宿を借りる。僧は男に求められるままに、仏法について説いて聞かせると、すっかり感化された男は、弟子として出家し、共に諸国を廻りたいと願い出る。男は自重を勧められるが、すでに身内には了解をとってあると言うので、頭を剃り、衣を与え、法名を授ける。そこへ夕飯ができたと知らせにやってきた妻は、頭を剃りあげて坊主となった夫の姿をみて…。

仕舞…敦盛（キリ）（あつもり）

一ノ谷の合戦で熊谷二郎直実（くまがいのじろうなおざね）に討たれた有様を再現して見せる敦盛。出家して蓮生（れんせい）法師となった直実を討とうとするが、もはや敵ではないと悟り、弔いを頼みつつ姿を消す。

仕舞…鐘之段（かねのだん）

行方不明の息子を探し、狂女となって三井寺に現れた母は、人々の制止を振り切って鐘を撞く。鐘の音を涅槃経（ねはんきょう）の雪山童子の偈（いろは歌の元歌ともいわれる）になぞらえて、鐘を撞いて煩悩を晴らせば、その心を仲秋の名月が静かに照らしている。

仕舞…融（とおる）

源融（みなもとのとおる）の亡霊が昔の栄華の姿で、月に興じて舞を舞う。三日月を舟、弓、釣針に見たてるなど、様々に舞い遊ぶが、やがて夜明けとなり、名残を惜しみつつ再び月の都へ戻っていく。

能…芭蕉（ばしょう）

楚国の湘水（しょうすい）の山中、独り法華経読誦の修行に励む僧（ワキ）のもとに、毎夜訪れる人の気配がする。今日こそは声をかけようと思いながら読経していると、女（前シテ）が僧の徳に縋ろうと現れる。女は結縁（仏と縁を結ぶこと）のため、庵に入りたいと言い、僧は一旦は断るが、女の志の深さに心動かされ、庵の内へ招き入れる。読経を聞いた女は、「女や草木までも成仏できるのですか」と、経の内容を尋ねると、僧は草木も成仏するという法華経の薬草喩品（やくそうゆほん）を説き聞かせる。難解な教えをたちまち感受する女を不審に思って尋ねると、女は「雪のうちの芭蕉」の故事を引き、正体を偽っていることをほのめかして姿を消す。（中入）

その後やってきた里の男（間狂言）に「雪中の芭蕉」の故事について尋ねると、昔唐代の絵師王摩詰（おうまきつ）が皇帝の命で雪の中の芭蕉を描いた話を語り、僧は、先ほどの女が芭蕉の精の偽りの姿だったと知る。

僧が法華経の功徳の有難さに夜通し読経していると、女は再び現われ（後シテ）、「芭蕉がこのような女人の姿となったのは、土も木も天から降り下った雨露の恵みを享けるためです。」と語り、「でもその姿はもとの芭蕉の本性に従って愚かな女人の姿となり、風に裂けやすい葉のように袖も綻びそうです。」と恥かしそうな様子を見せる。

続いて地謡によって、無相真如（むそうしんにょ）の絶対真理が目に映る様々な物として現れる有様（諸法実相（しょほうじっそう））が謡われ、芭蕉の精は舞姿にそれを現わす。やがて舞は囃子のみの序之舞となり、舞が尽きる頃には月の光に袂は美しく輝くが、いかにも弱々しく、庭に一陣の風が吹き渡って、あとには芭蕉が破れて残るばかりだった。

2024.
9.29（日）**PM1:00**（正午開場）
矢来能楽堂

〒162-0805 新宿区矢来町 60
☎ 03-3268-7311

地下鉄東西線神楽坂駅下車　矢来口より徒歩２分
都営大江戸線牛込神楽坂駅　A1 出口より徒歩５分
駐車場はございません。
近隣のコイン駐車場をご利用下さい。

入場料（全自由席）
会員券（年４回）　一般 20,000 円　学生 10,000 円
１回券（当日券）　一般　6,000 円　学生　3,000 円

申込先：各出演能楽師または緑泉会まで
墨　　敬子　TEL&FAX　045-544-6787
中所　宜夫　TEL&FAX　042-550-4295

令和6年 第4回例会　12月14日（土）
能…… 源氏供養 Genjikuyou …… 桑田 貴志
能…… 葛城 Kazuraki …… 鈴木 啓吾